

## 恋愛の壁と少子化 ～中大生におけるコミュニケーション能力と恋愛の可能性～

The wall of love and declining birthrate  
～communication skills and possibility of love in Chuo-university students～

篠原 A 班

大村早絵子, 加藤駿英, 菅野瑞稀, 鳥海叶恵, 渡邊慧一

指導教員 篠原正博

中央大学 経済学部 篠原ゼミ

キーワード: 少子化, 恋愛, 恋愛の壁, コミュニケーション能力

はじめに

少子化の進行は長期にわたる社会問題の一つである。子供の数が増えれば解消につながるが、若者が子供を持つまでには3つの壁が立ちだかっている。異性と交際をする「恋愛の壁」、パートナーと婚姻する「結婚の壁」、子供を産む「出産の壁」である。この表現は、佐藤・永井・三輪(2010)が用い、小林(2012)が発展させた。

では、これらの壁を乗り越えるため私たちに何が足りていないのだろうか。

本研究では「恋愛の壁」に焦点を当て、その突破要因についてしらべる。三つの壁のうち「恋愛の壁」を選んだ理由の一つに実証分析の少なさがある。内閣府経済社会総合研究所(2022)「少子化対策と出生率に関する研究のサーベイ」は、少子化に係る実証分析についてまとめているが、そのほとんどが結婚・出産に関するもので、恋愛に関する研究は少ない。

### 1. 先行研究

実証分析の先駆的研究には小林(2012)がある。小林(2021)では①教育や職業といった社会階層は恋愛に影響を与えないこと、②学生時代に友人と遊んだ人、部活をした人、恋人がいた人ほど交際人数が増えること、が示された。研究の課題として、

①使用したデータが男性のみであること、②恋愛と現在の能力(コミュニケーション能力)の関係が不明瞭であること、が挙げられる。

以上を踏まえて、本研究では、「恋愛の壁」の突破要素として現在のコミュニケーション能力に着目した。仮説は「コミュニケーション能力が高いほど恋愛の壁を越えやすい」である。

### 2. 分析手法

#### (1) モデル

恋愛行動とコミュニケーション能力の関係を分析するために3つのモデルを用意した。

モデル1では従属変数を「交際経験の有無」、モデル2では「告白したことがあるか」、モデル3では「告白されたことがあるか」と設定し、説明変数はすべて「コミュニケーション能力」である。

比較のためにOLS、プロビットモデル、ロジットモデルの三つを用いた。

#### (2) データ

「コミュニケーション能力」については、一宮・福盛・松下(2013)を参考にした。この研究では独自に作成したアンケート項目群の因子分析を行った。その結果「傷つきの恐れ・同調と対立回避」、

「親しい人との関係」、「知らない人との関係・働きかけ」、「人付き合いへの積極性」の 4 つの因子が得られ、質問項目にその因子係数に応じた重み付け点数をつけた。本研究では、各因子で重み付け点数が高い質問項目を 4 つずつアンケートに組み込み、各因子を 0~4 点の範囲を持つ点数で表した。

中央大学の学生を対象にアンケートを実施し 230 名から回答を頂けた。有効回答数は 229 で、うち 224 名から任意の質問を含むすべての質問に回答して頂けた。各モデルにおいて欠損値がある個票データは取り除いている。

各変数の基本統計量と相関行列は以下に示した通りである。相関係数は±0.4 以下であり多重共線性の可能性は低い。

基本統計量	度数	平均	最小値	最大値	標準偏差
傷つき	229	2.4323	0	4	1.2071
親しい	229	3.4236	0	4	0.73721
知らない	229	2.2707	0	4	1.1302
人付合	229	1.2795	0	4	1.2844

相関行列	傷つき	親しい	知らない	人付合
傷つき	1	-0.2461	-0.1698	0.1763
親しい		1	0.325	-0.2367
知らない			1	-0.2034
人付合				1



### 3. 推定結果

推定結果は以下の通りである。

モデル1	全体		説明変数: 交際経験		***P<0.01, **P<0.5, *p<0.1	
	OLS	プロビット	OLS	プロビット	OLS	プロビット
説明変数	係数	係数	限界効果	限界効果	係数	限界効果
傷つき	-0.0385552	-0.123298	-0.0413305	-0.203191	-0.0406557	
親しい	0.0807998*	0.227074*	0.0761208	0.374089*	0.07485	
知らない	0.047015*	0.141333*	0.0473779	0.229869*	0.0459937	
人付き合い	-0.00227684	-0.00847394	-0.00284065	-0.00954860	-0.00191054	
定数項	0.425098**	-0.197653		-0.334796		
修正R <sup>2</sup> /疑似R <sup>2</sup>	0.046367	0.016514		0.015472		
N	229	229		229		

モデル2	全体		説明変数: 告白した		***P<0.01, **P<0.5, *p<0.1	
	OLS	プロビット	OLS	プロビット	OLS	プロビット
説明変数	係数	係数	限界効果	限界効果	係数	限界効果
傷つき	-0.00948266	-0.0314545	-0.0116531	-0.0445297	-0.0100973	
親しい	0.124632**	0.341019**	0.126339	0.586923**	0.133088	
知らない	0.100664***	0.291643***	0.108047	0.474953***	0.107698	
人付き合い	-0.0111538	-0.0310226	-0.0114931	-0.0464195	-0.0105258	
定数項	0.0213821	-1.32629**		-2.28598**		
修正R <sup>2</sup> /疑似R <sup>2</sup>	0.119491	0.071809		0.071989		
N	224	224		224		

モデル3	全体		説明変数: 告白された		***P<0.01, **P<0.5, *p<0.1	
	OLS	プロビット	OLS	プロビット	OLS	プロビット
説明変数	係数	係数	限界効果	限界効果	係数	限界効果
傷つき	-0.0521321**	-0.182254**	-0.0550346	-0.469059***	-0.0906778	
親しい	0.034046	0.101411	0.0306227	0.210749	0.0407417	
知らない	0.00502404	0.0156867	0.00473688	0.0941479	0.0182005	
人付き合い	0.0173493	0.0581351	0.0175549	0.0805478	0.0155714	
定数項	0.742187***	0.732606		1.05756		
修正R <sup>2</sup> /疑似R <sup>2</sup>	0.012017	-0.012728		0.00247		
N	226	226		226		

「親しい人との関係」「知らない人との関係・働きかけ」と「交際経験」が 10%水準で、「親しい人との関係」「知らない人との関係・働きかけ」と「告白した」が 5%・1%水準で、「傷つきの恐れ・同調と対立回避」が 5%水準で有意に関係していた。推定方法で大きな違いは見られなかった。

おわりに

「コミュニケーション能力が高いほど恋愛の壁を越えやすい」という仮説のもと、実証分析を行った。その結果、①仮説は部分的に支持される②「交際・告白した」と「告白された」では影響を与えるコミュニケーション能力に違いがある、ことが示された。

本研究の限界として①データの偏りの可能性②変数が簡略、であることが挙げられる

### 参考文献

一宮厚・福盛英明・松下智子 (2013) 「大学生を対象とした対人コミュニケーション尺度の開発：信頼性と妥当性」『健康科学』35号 9-15

小林 盾 (2012) 「恋愛の壁、結婚の壁 - ソーシャル・キャピタルの役割 - 」『成蹊大学文学部紀要』47号 157-164

佐藤・永井・三輪 (2010) 「結婚の壁—非婚・晩婚の構造」勁草書房

内閣府経済社会総合研究所 (2022) 「少子化対策と出生率に関する研究のサーベイ」

[https://www.esri.cao.go.jp/jp/esri/archive/e\\_rnote/e\\_rnote070/e\\_rnote066\\_01.pdf](https://www.esri.cao.go.jp/jp/esri/archive/e_rnote/e_rnote070/e_rnote066_01.pdf)

(最終閲覧 2023/10/24)